

### 5万分の1地質図「槍ヶ岳」発行される

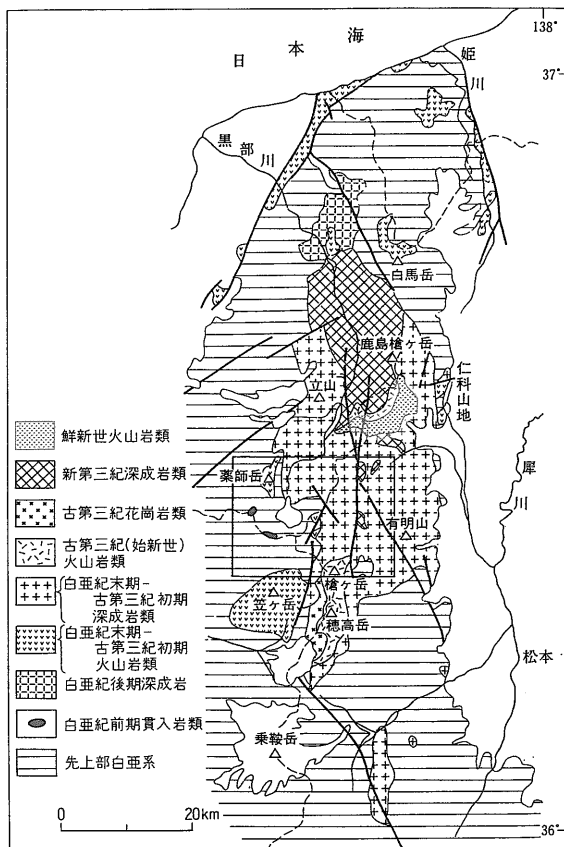
北アルプス表銀座と裏銀座のへそに当たるのが槍ヶ岳であろう。前年の「上高地地域の地質」に続いて「槍ヶ岳地域の地質」が刊行された。「大町」「信濃池田」とあわせて、夏山シーズンに30-40万人の登山者が訪れるという穂高岳・槍ヶ岳・燕岳・常念岳・三ツ俣蓮華岳・鹿島槍ヶ岳を含む北アルプス表銀座・裏銀座・後立山地域の地質が明らかとなった。

槍ヶ岳地域の地形は、1)第四紀にいたって急激に隆起した北アルプスの隆起軸部に位置していた、2)隆起軸部にそって火山活動が生じた、3)更新世末に山岳氷河が生じた、などによって形成された。その結果、二重山稜・非対称山稜などの山岳地形、カール・U字谷・モレーンなどの氷河地形など、特徴ある地形が発達している。北アルプス地域の隆起については本書では、開始時期は更新世中期(70-60万年前)、隆起量は最大2000 m以上と見積っており、隆起速度も従来の1-2 mm/年よりもかなり大きい2.9-4.0 mm/年と推定している。

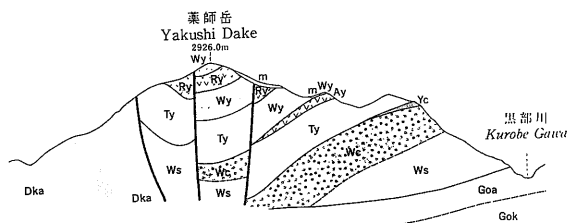
第四紀の火山岩類には、雲の平火山・上の廊下火山岩などがある。これらは北アルプスの隆起にともなう激しい削剝作用を受けて侵食されたため、火山体の形が失われている。

白亜紀末期-古第三紀火成岩類は、北アルプスを構成する地質の主体をなしている。このうち火山岩類は薬師岳・槍穂高連峰など高所に点在する傾向がある。花崗岩類は有明花崗岩・奥黒部花崗岩などからなり、餓鬼岳・燕岳・大天井岳など本地域の東半部に広く分布している。

船津花崗岩類は、本図幅地域西半部に分布し、1



第1図 槍ヶ岳および周辺地域における白亜紀-第三紀火成岩類の分布



第2図 薬師岳をとるNW-SE方向の地質断面  
画面左がNW、図の範囲の幅は5 km、m：モレーン堆積物、Goa、Gok：奥黒部花崗岩、Wy、Ry：薬師岳流紋岩類上部層、Ty、Ay：薬師岳流紋岩類下部層、Yc、Wc、Ws：手取層群跡津川累層、Dka：船津花崗岩類金木戸トール岩

億8千万年前後というジュラ紀前期の年代を示している。薬師岳南方・北ノ俣岳などに分布する手取層群は、ジュラ紀中期-白亜紀前期の堆積岩類で、船津花崗岩類を覆う。